

No.77

吉祥寺北町
三丁目付近にて

この街が好きだから

武蔵野スケッチ物語 絵と文・大須賀一雄

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。



この作品は、成蹊大学の西側に位置する街角で描いたものである。写生中に、何人かの人々に声をかけられ、会話を楽しみながら2時間半ほどで描き上げた。

私はこれまで数多くの風景画を描いてきたが、中でも建物の作品が圧倒的に多い。これは私の好みでもあるが、描き慣れていることもその理由かもしれない。

約30年前に、JR東日本からの依頼で、駅に置くPR誌「旅もよう」の表紙絵として駅舎を描くことになり、7年かけて東北から関東までの676の駅を現地を描いたことがあった。この時の経験がベースとなり、駅舎以外にも建物などの建造物を早く描けるようになった。

その後、縁あって本誌向けに武蔵野市内の街並みを描くようになり、現在に至っている。

武蔵野市内の建物は、地域によって趣が異なり、雰囲気が違うので、これからも生活感のある作品を描いていこうと考えている。

おおすか かずお
大須賀一雄

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。